２０１６年１０月２１日

日本大学　中村英夫

udc 都市情報研究会フォーラム　第１回　レジュメ

「人が主役の都市空間へ」

１．日本の事例、海外の事例

２．「人が主役の都市空間」を声高らかに

・出会いの場所としての街
・街の最大の魅力は人
・街のアクティビティ
・４つの目標
　生き生きした安全で持続可能で健康的な街
　（ヤン・ゲール著、北原理雄訳：「人間の街-公共空間のデザイン-」、鹿島出版会）

・Walkable City　4 原則と 10 のステップ
　(Jeff Speck, "Walkable City - How Downtown can save America, one step at a time, 2012)

・都市づくりの哲学

３．立地適正化計画と都市空間の質の向上

・都市機能誘導区域での空間デザイン・交通デザイン・アクティビティデザインとマネジメント

人が主役の都市空間へ

中村英夫

日本大学理工学部土木工学科

2016.10.21

2 / 100

3 / 100

4 / 100

5 / 100

6 / 100

7 / 100

8 / 100

9 / 100

10 / 100

11 / 100

12 / 100

13 / 100

14 / 100

15 / 100

16 / 100

100

18 / 100

19 / 100

20 / 100

21 / 100

22 / 100

23 / 100

24 / 100

25 / 100

26 / 100

27 / 100

28 / 100

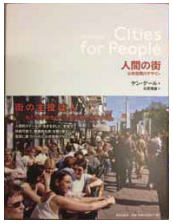
29 / 100

30 / 100

31 / 100

32 / 100

人間の街-公共空間のデザイン



人間の次元[1]

- 主流派の計画理論、特に近代主義的理論は、
- 公共空間、歩行者、そして都市空間が果たす
- 人びとの出会いの場所としての役割を
- あからさまに軽視していた。

人間の次元[1]

- 徒歩が交通手段として果たす役割が狭められてきただけでなく、
- 都市空間が社会面と文化面で果たす役割が狭められてきた。
- 住民の出会いの場所、社会的交流の場所の役割が縮小され、脅かされ、排除された

出会いの場所としての街[1]

- 歩行は交通モードの一形態
  - 「交通歩行」「歩行者流」「歩道容量」「安全な道路横断」
- 都市アクティビティの豊かなニュアンスと機会は見過ごされ無視されてきた

出会いの場所としての街[1]

- 歩行は、公共空間を舞台や骨格として共有する人びとの間の特別な交流形態
  - 人びととコミュニティとの直接のふれあい
  - 新鮮な空気
  - 屋外の時間
  - 自由なアクティビティの楽しみ
  - 経験と情報

出会いの場所としての街[1]

- 生き生きした安全で持続可能で健康的な街には、
- 都市アクティビティの前提条件は
- 良好な歩行機会

出会いの場所としての街[1]

- 歩行のアクティビティを強化すると、
- 貴重な交流やレクリエーションの機会が
- 自然に数多く生まれてくる

街の最大の魅力は人[1]

- 人びとは何かが起こりつつあるところに集まり、
- ごく自然に他の人びとの存在を探し求める。

- 歩道カフェの最も重要な魅力は歩道、
- すなわち街のアクティビティの眺め
- カフェの椅子のほとんどが歩道に向かって置かれる

街のアクティビティ[1]

- 「利用者の数」は一つの因子
- 「公共の都市空間で過ごす総時間」も重要
- 「活動水準＝数×時間」

４つの目標[1]

- 生き生きした街
- 安全な街
- 持続可能な街
- 健康的な街

生き生きした街[1]

- 交通がゆっくりしていると街が生き生きする
- 滞留が長くなると街が生き生きする

安全な街[1]

街の安全性を高める要素

- 街のアクティビティ
- 建物内のアクティビティ
- 柔らかいエッジ
- 明解な構造
- はっきりした領域。しかし、私的空間と公的空間のあいだに柔らかい移行を

持続可能な街[1]

- 気候、資源、緑の都市計画
- 歩行者と自転車の街
- すぐれた都市空間・公共交通空間
- 公共交通指向型開発

健康的な街[1]

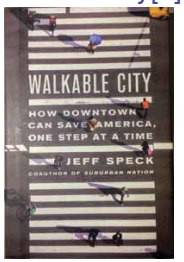
- よい都市空間
- 日常生活の自然な一部としての運動
- 昼夜を問わず明解でわかりやすく
- 安全に歩くことのできる街
- 美しい空間、質の高いファニチャ、ディテール、十分な照明

徒歩と自転車利用を促進[1]

新市街地の計画の考え方を転換

- 徒歩と自転車利用のための最短・魅力的なルートを設計
- その後、他の交通機関の要求に対応
- これにより、新市街地はコンパクトになる
- 「建物より空間を」「空間より生活を」優先すべき

Walkable City[2]



歩けるダウンタウンの４原則[3]

- 歩くことの有効性を高める（The Useful Walk）
- 安全に歩ける（The Safe Walk）
- 快適に歩ける（The Comfortable Walk）
- 楽しく魅力的で個性的な街並みを歩く（The interesting Walk）

歩くことの有効性を高める[3]

- 自動車を歩行者空間に入れない（Put Cars in Their Place）
- 徒歩で用事が足せる街に（Mix the Uses）
- 駐車場を便利にしない（Get the Parking Right）
- 公共交通でアクセスできる（Let Transit Work）

安全に歩ける[3]

- 歩行者の安全を守る（Protect the Pedestrian）
- 自転車を利用しやすく（Welcome Bikes）

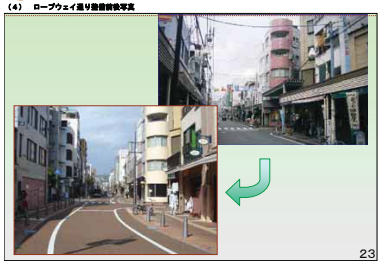
快適に歩ける[3]

- 道路空間を多様にシェアする（Shape the Spaces）
- 快適に歩ける環境に（Plant Trees）

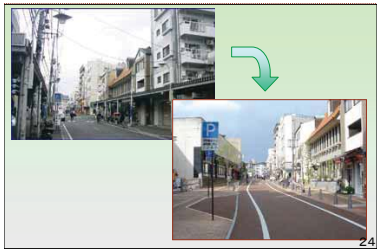
楽しく魅力的・個性的[3]

- 個性的で魅力的な街に（Make Friendly and Unique Faces）
- 通りの重要性に応じて対応（Pick Your Winners）

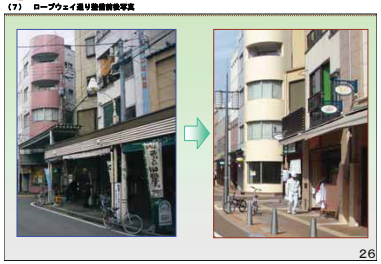
（4） ロープウェイ通り整備前後写真



（5） ロープウェイ通り整備前後写真



（7） ロープウェイ通り整備前後写真



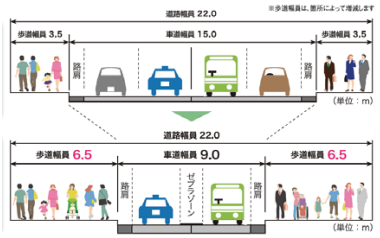
（8） ロープウェイ通り整備前後写真

（9） ロープウェイ通り整備前後写真

（1）道後温泉本館周辺の現状と問題点

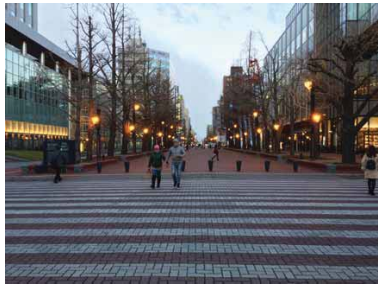
（5）道後温泉本館周辺整備前後写真

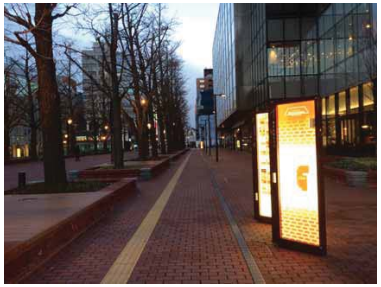
（6）道後温泉本館周辺整備前後写真



◆ 整備概要

- ８車線道路のうち４車線を地下化し、アンダーパスを連続化
- 地下化した道路の上部空間に親水緑地空間を整備
- 地域の活動や交流を図る広場空間（環二条広場）を整備
- 道路上部空間の賑わい創出のためのアートワークの設置





札幌市北3条広場

北3条広場は、街歩きを楽しく快適なものとし、さまざまな活動や気軽に憩うことができる広場であり、都心のみならず札幌の魅力・活力を高め、豊かな市民生活の実現につながることを目指しています。

この場所は、かつて都市計画道路「北3条通」として利用されていましたが、隣接ビルの建設を行った三井不動産株式会社及び日本郵便株式会社（以下、整備事業者）からの提案を受け、平成19年8月に広場として都市計画決定し、「道路」と「広場」の機能を併せ持つ施設として、平成26年7月にオープンしました。

この広場の整備は、整備事業者がビル建設を機会とした公共貢献の一環として行い、また、広場のデザインや活用の基本方針は、整備事業者をはじめ、地域関係者や有識者などによる検討を重ねて決定したものです。

広場禁止行為

1. 施設、備品等をき損し、又は汚損すること。
2. 火災、爆発その他の危険を生ずるおそれのある行為をすること。
3. 騒音又は大声を発し、暴力を用い、その他他人に迷惑になる行為をすること。
4. ごみ、空き缶その他汚物を投棄し、又は悪臭を発生させる行為をすること。
5. 樹木を伐採し、又は植物を採取すること。
6. 興行、展示会、集会、演説、競技会その他これらに類する行為をすること。
7. 物品その他の物を販売し、若しくは販売させ、又は金品の寄附募集等の行為を行い、若しくは行わせること。
8. 広告物又はこれに類する物を表示し、配布し、又は散布すること。
9. 業として写真、映画等を撮影すること。
10. 火気を使用すること。
11. 車両を乗り入れること。
12. 球戯、スケートボード、ローラースケートその他これらに類する行為をすること。
13. 施設、物品等を設置し、又は放置すること。
14. 前各号に掲げるもののほか、市長が広場の管理運営上特に必要があると認めて禁止する行為。

立地適正化計画の３本柱

1. 居住誘導区域
2. 都市機能誘導区域
3. 地域公共交通

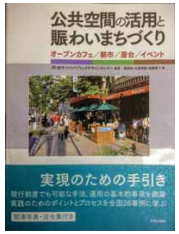
立地適正化と空間の質向上

- 都市機能誘導区域への取り組みは
- 機能集積だけではなく
- 都市空間の質の向上が必須

立地適正化と空間の質向上

- 空間デザイン
- 交通デザイン
- アクティビティデザイン
- マネジメント

改訂への期待



参考文献

松山市、京都市、札幌市の資料
服部圭郎氏撮影写真（http://10plus1.jp/monthly/2011/12/-320.php）

[1] Jan Gehl.
人間の街: 公共空間のデザイン.
鹿島出版会, 2014.

[2] Jeff Speck.
Walkable City: How Downtown Can Save America, One Step at a Time.
North Point Pr, reprint edition, 2013.

[3] 海道清信.
コンパクトシティ-人口減少社会での課題と方法-.
第 9 回 PI セミナー, 2015.

ご清聴ありがとうございました